

JCTIC (マレーシア：コタキナバル)

久保智巨 (栃木県宇都宮市)

期間：2012年12月2日～2013年1月31日
(61日間)

私のマレーシア・コタキナバルでの日本語ボランティアも今回で3回目、通算6カ月の滞在となりました。初回訪問以来この国が好きになり、回を重ねることとなりました。以下が今回のマレーシア・コタキナバルでのボランティア活動報告です。

JCTIC での授業内容

今回の JCTIC での授業担当はビギナー 1 (6-12 課)、インターミディエット 1 (19-25 課) の 2 クラス。事情があり後半のクラスは 1 カ月程度で他の先生にお願いし、2 カ月間は前半クラスを教えました。

授業期間のメイン課題は、前半のビギナー 1 クラスは形容詞並びに形容詞文の変化形、後半のインターミディエット 1 クラスは丁寧形と普通形の交通整理、動詞・形容詞・名詞文の変化形です。両クラス共に学生たちは本当に熱心で、楽しく和やかな雰囲気の中で授業を進めることができ、授業内容の定着を図れたものと思います。



学生とともに

学生に限らずマレーシアの人達は基本的に日本と日本人に対しては好意的です。受講者達も日本が好きでぜひ日本語を話したい、日本に行ってみたい、日本語を仕事に生かしたいなどの気持が強く、勉強への意欲も充実しています。

たった 2 カ月の授業期間でしたが、岡村先生 (校長)・事務のザック君・キヨちゃんなどのバックアップをいただき、本当に楽しく過ごせたことを感謝しています。

コタキナバルでの日常生活

(以下コタキナバルを KK と略します)

今回は 3 回目のステイのため宿泊施設 (マリーナコート) や JCTIC さらに町の中の様子もかなりよくわかっており、日常生活も前回までの経験からある程度のパターンができています。

まず朝 7 時半に起床、洗濯機を動かしてから同宿の渡邊氏とともに JCTIC 近くにある軽食 ショップで朝食をとります。ここは早朝から AM9:00 迄の営業ですが、40 席の店内がいつもカスタマーでいっぱいです。毎回サンドイッチ、卵焼きとオレンジジュースをオーダー、2 人で 15RM(450 円)という安さです。前回仲良くなったウェイトレスのマレー人女性のこぼれるような笑顔が毎朝の楽しみです。

その後はデュッセルトンポイント近くの海岸沿いの遊歩道から中央市場の中をのぞくか、デュッセルトンホテルでティータイム。AM10:00 ころには帰宅し、洗濯物を干したら部屋でくつろいだり、その日の教案を作ったりと気ままに過ごします。

また午後は少し外に出たり、マリーナコート内のプールサイドで心地好い風に吹かれて時を過ごしたりしました。今回はなかなか雨季が明けず気温が余り高くならなかったため、一度も泳ぎませんでした。

夕食はコンドミニアムで、また時には外食しますが中華系の食事がほとんどです。マレー料理も美味しいのですが、これは毎日食べ続けるとある日突然拒否反応が起き、食べ物を受け付けなくなります。(油のせいかと思いますが初回滞在時に苦い経験をしてからマレー料理はたまにしか食べないようにしています)

夕方からは JCTIC に向かい授業を行います。それが終わったらコンドミニアムに帰り、渡邊氏とビールを飲みながら四方山話をしてその日が終わります。これが大体平均的な日々の過ごし方でした。

アクティビティ (現地での遊びや観光)

前 2 回のステイでは週 3 回テニスのレッスンを受けましたが、今回はサバ・ビジネスカレッジの英語教師マリア先生に週 1~2 回の個人レッスンを受けました。(親切でとても優しい美人のイギリス人女性です)

事前準備や勉強が嫌いなので、何も準備せず 1 時間を会話で過ごしたいとお願いしました。先生は快くこの方法で引き受けてくれましたが 30 分以上になると、話題を続けるのが大変になってきます。一時期はレッスンの時間が苦痛に感じられる時もありましたが、何とか最後まで続けることができました。このレッスンは前出の渡邊氏と連続してのマンツーマン・レッスン

なので、テーマなしの授業は我々も疲れましたが、今になって考えると先生の方がより疲れたのではないかと思います。

何事も努力をせず楽に身につけられる方法などはないものと悟りました。

市内のウォッチング

KKも滞在3回目となると主たる所はもう何回も訪れており、徒歩で行ける所は行き尽くした感があります。とはいえ、マレーシアは車のレンタルには年齢制限があり、借りられたとしても余りの交通量の増加で、自分で車を運転するのは危険過ぎます。

また、タクシーを使うにも行きたい所がわからないという悩みに突き当たります。これは訪問2回目からの悩みであり、今回は何とか打開策を見つけたいと考えていました。いろいろ考えましたが、少し遠出をするには、やはり解決手段はバス利用しかないようです。

しかし、道路地図が余り完備されておらず、乗り合いバスでは英語は通じないため、かなりのリスクがあります。(4年前にバスに乗ったときアテンダントに頼みましたが、目的地の10キロ先で降ろされた経験があります)

考えあぐねた結果、授業前のひと時に、学生に次のように聞きました。「バスで行ける所でどこかよい所はないか」「バスの乗り方を教えてほしい」このやり取りの中で1人の学生が「私の車で市内を案内する」と言い出しました。あまり学生に負担をかけてはと一時は躊躇しましたが、好意に甘えることにしました。

次の日、学生は車でまだ見たことがなかった美術館や古い時代の高床式の住居展示施設などを案内してくれました。また、お昼をご馳走になった上に自宅に招いていただき、家族ぐるみで時間を過ごしました。



学生の自宅で

学生の姉は日本人と結婚しており、日本語が上手な綺麗な人です。彼女は名古屋に長く住んでいたことがあり、日本の話題で話が盛り上がり楽しいひと時をすごしました。

市内バスでの中近距離の探索については、その後地

元の人に聞いたり、実際に乗ったりと手探りでチャレンジし、一部路線と見どころを開拓することができました。いろいろお世話になりました。

ボルネオ島内のツアーと病気

キナバル山近くの植物園、ポーリン温泉ほかを歩き、世界最大の花ラフレシアを見ることができました。

2カ所で各1時間程度急な坂道を歩いたためひどく汗をかいたり条件は極めて悪く、その日の夜からひどい風邪症状になってしまいました。1週間余りしてようやく回復しましたが、この間、現地の方々に大変お世話になりました。家主の氏原・ティナご夫妻には菓やお粥等の面倒をいただきました。また、当初の回復がよくなかったため病院に連れて行っていただき、奥様のティナさんには症状の通訳をお願いするなど大変なお世話をいただきました。この間2回ほど授業を休みましたが、驚いたことに学生が心配してメールをくれたり、コンドミニアムまでわざわざお粥を作って持ってきてくれたりしました。

大変な思いをしましたが、現地の人達の驚くほどの優しさに触れることができ、KKのととてもよい思い出になっています。また氏原・ティナご夫妻にはいつもながらお世話になり、本当に感謝の言葉もありません。

コタキナバルの変貌

4年前の最初の訪問時に見たコタキナバルは発展途上でごちゃごちゃしてはいるが何となく親しみを感じさせる田舎町、キラキラ輝く美しい海と過ごしやすい気候の楽園というイメージでした。そんなKKの人と街が好きになり、ロングステイも回を重ねるようになりました。しかしこの4年の間にKKも随分変わりました。今回、目にしたのは急速に都市化が進んだ町の姿でした。車と騒音が溢れ、町のあちこちに起きるひどい交通渋滞、シーサイドや川は汚染され、ビルの乱開発と旧ビルの空室化など、まるで日本のいつか来た道を思わせる状況です。古きよきものを守りたい良識ある人達も多いとのことですが、何もできない状況のようです。

しかし、短期間の一時滞在者である私たちが事の是非を評するのは僭越なことなのかもしれません。地元の大多数の人たちはまだまだ貧しく、豊かな暮らしを願う人たちの気持ちもわからぬわけではなく、本当に複雑な気持ちにさせられた滞在でもありました。

最後になりますが、今回の滞在に関してお世話になった方々に重ねてお礼を申し上げるとともに、私の大好きなコタキナバルがもうこれ以上変わらないことを祈りつつ筆を置くことにします。